

さび止めP 業務用 製品概要

○ 特徴

「さび止めP業務用」は抗酸化サプリメントで、主な有効成分はブドウ種子より抽出されたプロアントシアニジンです。その最大のねらいは活性酸素を抑制して人体への障害を予防することにあります。

活性酸素を抑制する抗酸化サプリメント／薬品には、ビタミンA・C・Eやカテキン、コエンザイム-Q10、ルテイン、セサミン、リコピン、イソフラボンなど多数あり、どれがよいのか選択に迷います。その中でプロアントシアニジンは、過酸化水素など4種類ある活性酸素のすべてを中和するだけでなく、酸化酵素阻害作用も合わせ持っています。さらに分子量が大きいので多量の活性酸素を除去し、かつ活性酸素除去後の物質も安定しているので副次的な害作用がありません。すなわち、理論的に最も有効性が高く、かつ副作用のない抗酸化物質といえます。その結果、最も信頼性の高い複数のヒト対象試験でも有効性が確かめられています。

○ さび止めP 摂取が勧められる場合

- ・最近しみ（肝斑）が気になっている。
- ・動脈硬化進行による老化現象に不安を持っている。
- ・過激な運動による循環器系の障害が心配である。
- ・パソコンや屋外作業で眼を酷使している。
- ・脳を酷使するストレスが多い。

- お召し上がり方：健康補助食品として、1日2～4カプセルを目安としてお召し上がり下さい。
- 内容量：15.6g（260mg × 60カプセル）
- 成分 2カプセル当たり

プロアントシアニジン：120mg	
エネルギー	1.89Kcal
たんぱく質	0.009g
脂質	0.001g 未満
炭水化物	0.465g
灰分	0.014g
ナトリウム	0.461g

○ 配合設計の基となった臨床試験

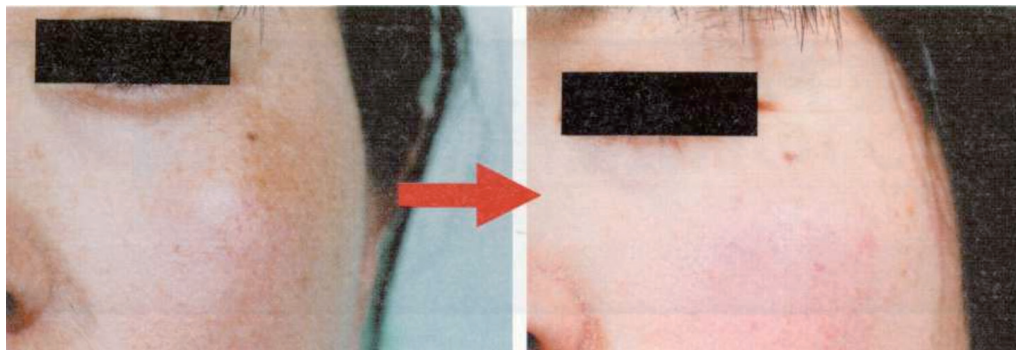
このサプリメントの主成分は、醤油メーカーとして世界的に有名なキッコーマン(株)により供給されています。キッコーマンの研究所ではヒトと動物を対象とした厳格な臨床試験を実施し、プロアントシアニジンの有効性を確認しています。その有効性試験の結果を簡潔にまとめてみました。

1) ヒト臨床試験

一般に健康食品メーカーは資本力と研究スタッフに乏しく、ヒトでの臨床試験実施は困難なことが普通です。キッコーマンは歴史と伝統のある大メーカーで資金と一流の研究スタッフを備えており、しっかりとヒト臨床試験を行っていますので、その一端をご紹介します。

① 皮膚色素沈着改善作用

しみ（肝斑）のある男女 26 名にプロアントシアニン 160mg（さび止めP 業務用約 3 カプセル）を毎日飲んでもらったところ、6 ヶ月後には 65% にしみ改善効果が見られ、肌のつやや、しっとり感、はりもよくなりました。改善効果を示す写真をお見せします。



(FOOD Style 21 2002.12, Vol.6 No.12)

② 血液流動性向上作用

いわゆる血液をサラサラにする効果です。健常人 10 名を対象としてプロアントシアニン 200mg（さび止めP 業務用では 3 カプセル強）を服用してもらい、血流速度を測ったところ服用後は約 1.7 倍に増加していました。この結果は、プロアントシアニンの血栓予防効果を示唆しています。

③ 動脈硬化抑制作用

ヒトを対象として試験で、プロアントシアニン 400mg（さび止めP 業務用約 6 カプセル）を 2 週間摂取したところ総コレステロールや中性脂肪に加え、LDL コレステロールが低下しました。また別のヒト試験では、プロアントシアニンの血液中の酸化作用を抑制する効果がビタミン E・C よりも高いことが確認されました。これは動脈硬化の直接的原因となる LDL コレステロールの酸化作用が抑えられ、それにより加齢による動脈硬化進行を遅らせる効果が期待できることを示しています。このことは、ワインを常飲するフランスで心筋梗塞などの動脈硬化性疾患が少ない、いわゆるフレンチパラドックスが成り立つ理由として納得できます。

④ 筋肉疲労予防作用

成人男性 12 名を対象とした試験で、有酸素運動前後の過酸化脂質レベルを測定しました。結果は、筋疲労に伴う過酸化脂質増加率が服用なしの 95% に対しプロアントシアニン 200mg（さび止めP 業務用約 3 カプセル）服用群は 15% と激減しました。このことは、激しい運動後の筋肉疲労が早く取れることを意味しています。

2) 動物実験

他に動物実験では、胃潰瘍・大腸ポリープ・皮膚癌・白内障・認知症・乳癌・アレルギーの予防作用が確認され、さらに肺癌の転移予防作用が認められていることは特に注目されます。

ヒトや動物を対象とした試験を通じて副作用は認められておらず、安全性・信頼性は極めて高いといえます。クリニックでの使用経験上まれな問題点として唯一あったのは、低血圧の人で飲み始めに寝つきが悪くなることでした。これはプロアントシアニンの脳疲労低減作用により、いわゆる「頭が冴えた」のが原因とされます。